現状における 渦電流探傷試験の運用案

運用案

適用対象

○タンク底部の全溶接部（溶接止端部から板厚の1/2までの熱影響部を含む溶接部）

案の理由

ただし、以下を対象とする。

(1) 溶接後にMT又はPTによる検査で技術上の基準を満たしていることが確認された箇所。

ECTでは、検出信号から溶接きずの種類を判断すること、微細な溶接きずを検出することは困難と考えられるため。

(2) 突合せ溶接又は重ね溶接のビード形状はなめらかである箇所。

溶接ビードが荒れた場合、探傷は困難という結果であるが、溶接ビードの荒れに関する指標がないため、危規則第20条の4第3項第2号と同様に溶接ビードは、滑らかな形状とすることとする。

留意事項

○検証試験の結果に基づいて、検討

合格基準

○検証試験の結果に基づいて、検討